

「教育ある人」とは

開倫塾

塾長 林 明夫

1. はじめに

- ①どのような生き方をして、どのような人生を送ればよいのか。いつまでも若々しく生きるには、どうしたらよいか。
- ②まじめな人ほど真剣に考え、どうしてよいか判らずお悩みになるようだ。
- ③何かのご縁でこの文章をお読みの皆様には、「教育ある人」に是非なって頂きたい、と私は希望する。では、一体「教育ある人」とはどんな人か。

2. 「教育ある人」とは

- ①入学が難しい学校に入った人とか、その学校でよい成績をとった人、難しいといわれる国家試験に合格した人、更には修士号や博士号を取った人などが、必ずしも「教育ある人」とは限らない。では、一体「教育ある人」とはどんな人か。一口で言えば「ずっと勉強しつづける人」のことだ。どんな難関校に入学しても、そこでどんな成績を取っても、難関な国家試験に合格し資格を取得しても、修士号や博士号を取っても、その後「ずっと勉強しつづける」なければ「教育のある人」とはいえない。

では、一体どのような形で勉強しつづければよいのか。「教育ある人」の条件を考える。

- ②まず第1に「教育ある人」とは、「一生」勉強しつづける人を言う。「今日のこの日から死ぬ直前まで一生勉強しつづける人」を「教育ある人」と言う。

*大事なことは、現在から、これから、死の直前まで勉強しつづけることであって、今までのことは、一切問わない。今現在と将来を大切に考えること。「これからずっと死ぬまで勉強をしつづける」という意味での教育ある人」を目指して頂きたい。

- ③第2に、「自分なりの目的や夢、生きる喜びをもって」勉強しつづける人を「教育ある人」とも言う。目的や夢、生きる喜びをもって勉強しつづけると、素晴らしい人生が開ける。自分自身をみがき上げ、深化させることができれば、人様のお役に立つこともできる。

*目的や夢、生きる喜びを見い出せない人は少し生活に変化をつけるとよいかも知れない。日帰りでもいいから小さな旅行に一人で出掛けたり、この「みにむ」や新聞などをたんねんに読んで、興味をもってそうな催しやイベントに一人で出掛けてみるのは面白い。たとえ、月に1回、2時間だけでもいいから、今までと少し違ったところに、自分自身を置いてみる。チャレンジ精神が、目的や夢、生きる喜びをもって勉強をしつづけるのには大事だ。

*大きめの図書館や本屋さんを時々ぞいてみると、おどろくほどの発見ができる。近くにある大学や短大の図書館も、ほとんどのところが一般市民にも公開されている。一定の簡単な手続きさ

え取れば、入館可能なところが多い。是非、訪問して頂きたい。今はインターネットがずい分簡単にできるようになったので、少し興味のあるホームページを開いてみて、しばらくのぞき込むと、世界中の情報が入手できる。何を目的にして勉強しようかを考えるよい資料は、山のようにころがっている。

④第 3 に「一所懸命に勉強をしつづける」人が、「教育ある人」だ。同じ熱心さを表わすにも「一生懸命」よりは「一つの所で命を懸ける」ことを表す「一所懸命」の方が、「教育ある人」にふさわしい。

*いろいろ選択をした結果、一つのことを文字通り、一つの所で命を懸けるつもりで、死ぬ直前まで勉強しつづけて、はじめて「教育ある人」と言える。

*「花火大会」は瞬間の美しさを競う素晴らしいものだが、人生や勉強は「花火」大会型は余りにも空しい。刹那（せつな）刹那をつなぎ合わせるような生き方は、疲れ過ぎたり、他の人に迷惑をかけ過ぎることが多い。自分の目標や夢、生きる喜びに基づいた「テーマ」を決め、一所懸命に勉強しつづけ「教育ある人」を目指して頂きたいと思う。

⑤第 4 に「自分自身の勉強の方法を身につけて勉強しつづける人」を「教育ある人」と言う。「自己学習能力」つまり「自学力（自ら学ぶ力）」を身につけた上で勉強しつづける「教育ある人」を目指して頂きたい。

学校や様々な民間教育機関に通う目的の一つは、「学ぶ力」を身につけることにあると私は思う。「自学力」を目の前にいる児童、生徒、学生に身につけさせることのできる先生は、素晴らしい先生と言える。「自己学習能力」の育成のために組織を上げて取り組んで初めて真の意味の「教育機関」といえる。

*そうは言っても、何をどう勉強してよいかわからないとお悩みの方は多いと思う。そんなときは、もし、皆様が学生だったら、今教わっている先生に、率直に「勉強の方法」を質問することをおすすめする。先生にとって最も嬉しいことの一つは、この先どのように勉強したらよいかを質問されることだからだ。そして、先生から教わった勉強方法のうちできそうなものから少しずつ、ためらうことなく実行してみる。試行錯誤（トライ・アンド・エラー）を繰り返しながら、自分なりの方法を少しずつ見出し、身につけていくこと。

*「勉強の方法」を教えて下さる方がいない場合にはどうするか。アンテナを高く張りめぐらして、ありとあらゆるところから、執念深く情報を集め、よい先生を捜し当てるのも一つの方法。どうしても先生が見つけれなければ、自らでその分野での「勉強方法」を発見する努力をすること。

*ただ、私の基本的な考えは、勉強する場合はよい先生を捜し当て、その先生について基本的なことを教わると同時に、勉強の方法、取り組み方を教わって、自分なりの勉強方法を少しずつ身につけることが、目的や夢、生きる喜びを実現する現実的なやり方かなと思う。この意味で、よい先生に出会うことは大事だ。どんな形であれ「先生」と呼ばれる職業の人の社会的責任は大きい。教育とは、この人をどうにかしてあげたいという情熱のあらわれ、一つの表現だ。基本的な知識を身につけさせると同時に、死ぬ直前まで勉強するときに、用いるに値するだけの「勉強方法」を、目の前の教わり手に、教えている間に身につけさせなければならない。「先生」と呼ばれる人は、どうか、どんなに短い指導の期間であっても、教わり手が一生涯用いるに値する勉強の方法を伝授することを心掛けて頂きたい。先生は「勉強方法」の指導も、戦略を立ててレッスン・

プランの中に入れこんで頂きたい。

⑥このように「教育ある人」とは「ずっと勉強しつづける人」を言う。その内容は、「今日のこの日から死ぬ直前まで」、「自分なりの目的や夢、生きる喜びをもって」、「一所懸命に」、「自分自身の勉強の方法で勉強しつづける人」を言う。

どのような世の中がきても、誰をうらむことなく、自分の力で未来を切り開いていける人間にみんながなっていくことが大事だと思う。そのために、自分自身を何歳になっても「教育ある人」に少しずつ育ててあげること。

3. おわりにー政策立案担当者のためにー

①例えば、県予算の 25%が学校職員の人件費につかわれ 5%以上が警察職員の人件費につかわれるとすれば、言いにくいことではあるが、キチンとした教育や、治安の維持を考えることは政策担当者として当然の職責だと思う。

②私は、いろいろな意見があることは承知した上で言うのだが、学校の敷地内で生じたことは、すべて学校の責任であると思う。学級崩壊や校内暴力をはじめとする様々な問題はすべてその学校の責任であると考えた方がよいと思う。もっと言えば、学校で生じたことは学校長の責任、クラスで起こったことはそのクラスを担当していた先生の責任だと考えた方がよいと思う。

同時に、校長には一つの学校を責任をもって運営することのできるに値するだけの権限を与えるべきかと思う。クラスを担当する先生にも、クラスを責任をもって運営できるだけの権限を与えるべきかと思う。解決を先のぼしにするのはもうよそう。

学校の中で様々な問題が生起しているのに、それを時代の風潮で解決困難であるからといって、放置しておくのは、政策担当者の不作為責任と言える。学校内では「権限なき者は責任を果たせず」で困り果てているのであるから、それを解決できるのは知事、市町村長と、県議・市町村議会議員しかいない。学校長の責任と権限、教職員の責任と権限についての議論を深め、一定の結論を「教育政策」という形で納税者の前に出して頂きたい。

③誰が見ても、どんな人に意見を聞いても、暴走行為は「犯罪行為」として取り締まってもらいたい内容だ。なぜ、暴走行為が取り締まれないのか。これは、警察当局というよりは、政策立案担当者の怠慢であると思う。法律や条令が未整備で取り締まることができなければ、法律や条令を制定することが政策担当者の責任だからだ。深夜の大騒音や走行妨害で被害を被る一般市民も気の毒だが、法律や条令等の法令の不整備のために取り締まりのできない現場の警察官も気の毒だ。よく警官として働く意欲がなくなるものだと思うくらいだ。現代犯罪としての暴走行為を取り締まれるに値するだけの法令の整備を政策担当者をお願いしたい。

又、もし、逮捕者が出た場合に、刑事手続がすすみ大量の人数の身柄を拘束するだけの場所が不足することが取り締まりのできない原因の一つなら、施設の建築のための予算はつけるべきかと思う。更に、取締担当者の数が少ないことが原因で取り締まりができないのであれば、雇用対策の一つとして、失業した人を再雇用できるだけ予算を組むべきかと思う。

④政策担当者は、もっともっと学校に出掛け、校長や先生や生徒や保護者と話し合うべきだ。暴走行為の現場に警察官とともに出掛け、何が原因で取り締まりができないかを考えるべきだ。

折角、有権者の貴重な投票によって選出されたのだから、不作為責任を問われることのないように、現代の問題にも真正面から立ち向かって頂きたい。

どうか、がんばって下さい。

(3月10日記)